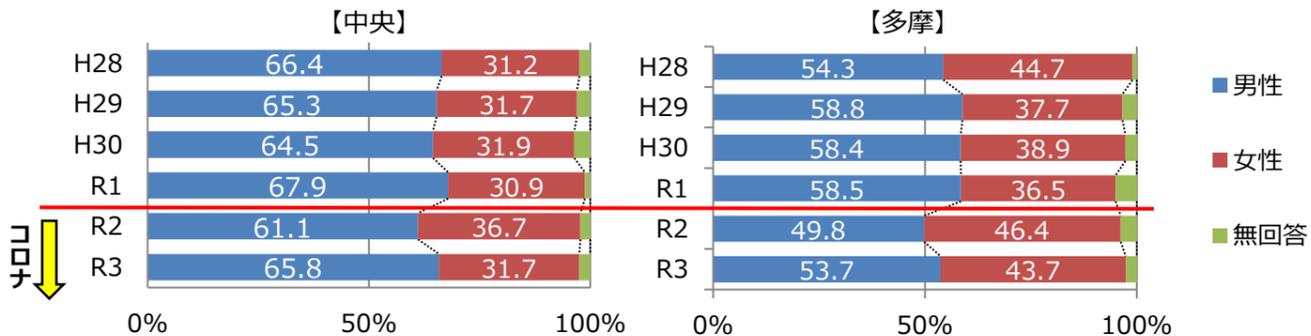


1 利用者属性

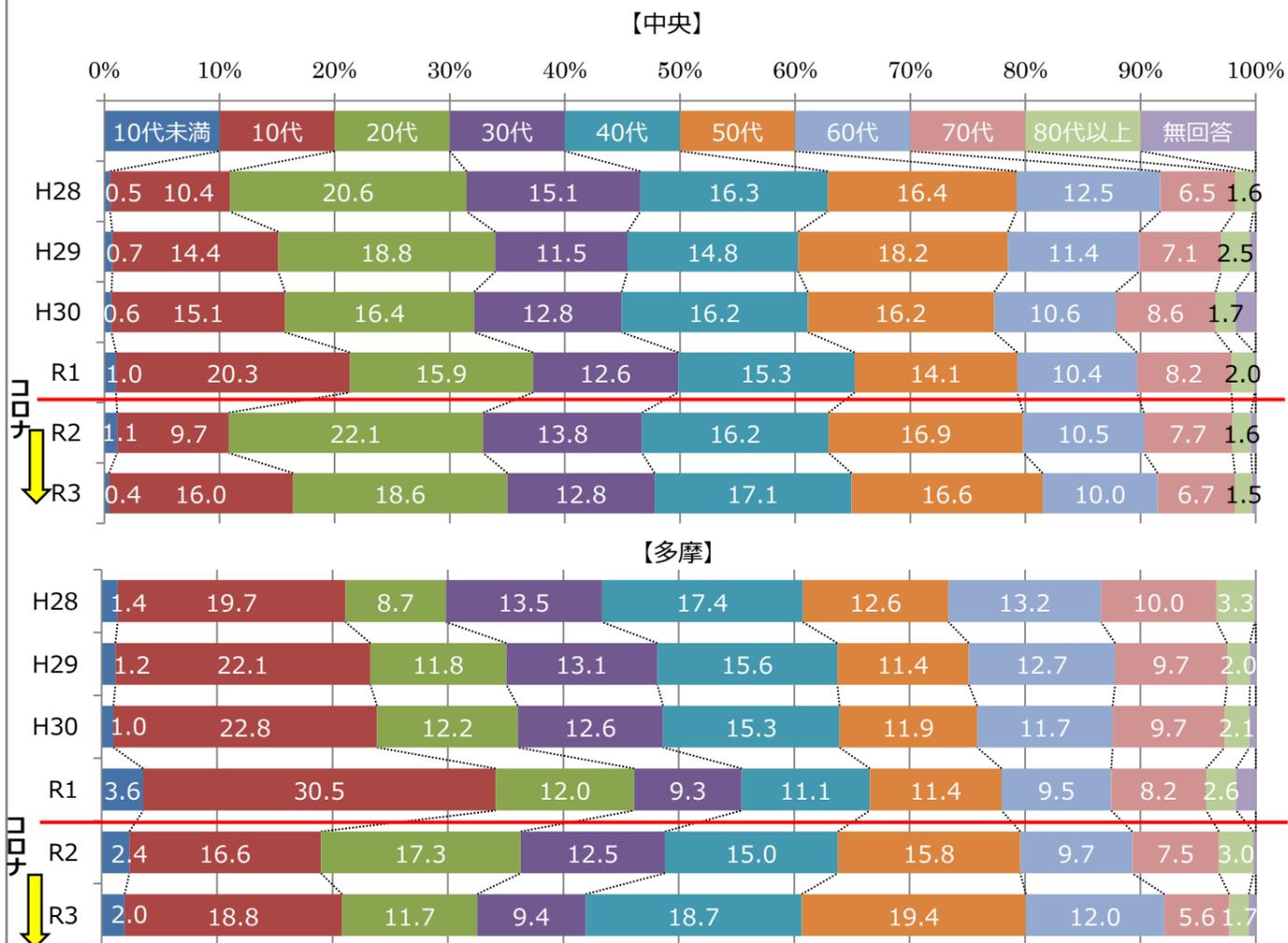
(1) 性別

・両館とも、男性の割合が高いが、多摩図書館では、女性の割合が中央図書館よりも高い。



(2) 年齢層

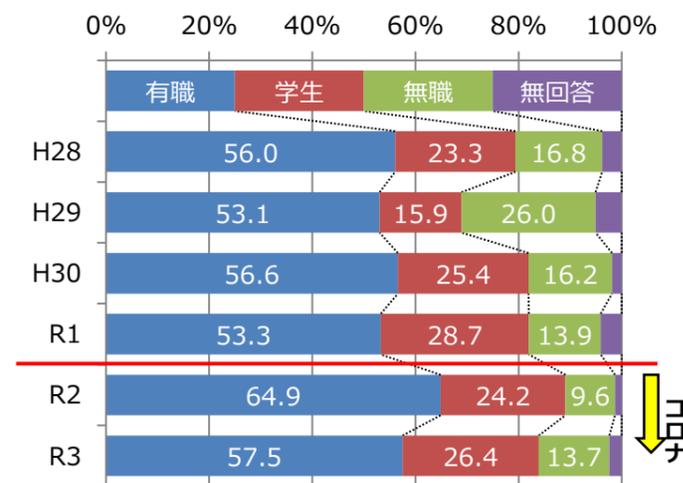
・コロナ前は、両館ともに10代の割合が年々増加しており、多摩図書館では特に高い割合を占めていた。
 ・コロナ禍により、10代の利用は一時的に落ち込んだが、回復傾向にある。



(3) 職業

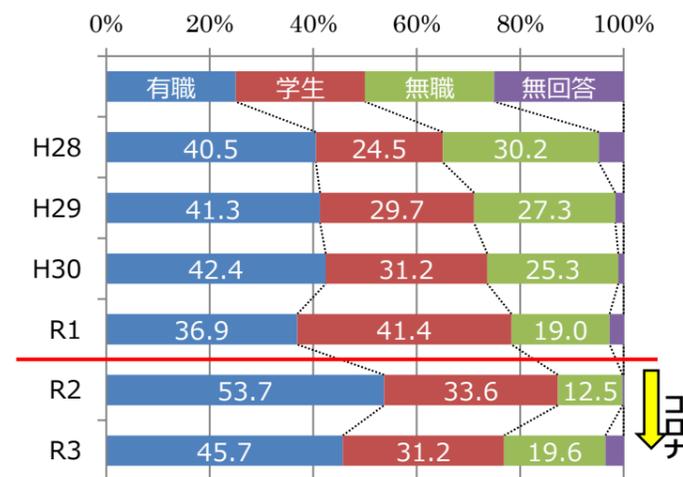
【中央】

・コロナ前は、「有職」の割合が高く、「学生」の割合は平成29年度に一度落ち込んだものの、期間を通じて見れば増加傾向にあった。
 ・コロナ禍の期間は「有職」がさらに増加し、「学生」「無職」が減少したが、回復傾向にある。
 ・「学生」をさらに詳細に分析すると、「高校生・受験生」は令和元年度12.7%に対し、令和3年度11.5%とコロナ前の近い水準に戻っているが、「小・中学生」については令和元年度6.1%に対し、令和2年度2.7%、令和3年度2.9%と、十分に回復していない。



【多摩】

・コロナ前は、「有職」の割合が若干高く、「学生」の割合は増加傾向にあり、令和元年度には4割以上に達していた。
 ・コロナ禍の期間は「有職」が増加し、「学生」「無職」が減少した。「無職」はコロナ前の水準に戻ったが、「学生」が十分に回復していない。
 ・「学生」をさらに詳細に分析すると、「高校生・受験生」は令和元年度20.8%に対して令和3年度13.4%、「小・中学生」は令和元年度10.5%に対して令和3年度5.9%とコロナ前の半分強にとどまっており、回復が今後の課題である。



<参考> 『東京都立図書館利用実態・満足度調査』各年度概要

- ・来館利用者に対し、図書館出入口付近にて、入館時に調査票及び筆記具を配布し、退館時に回収した。
- ・令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策の下で調査を実施した。

年度	中央図書館				多摩図書館					
	調査日	入館者数	配布数	回収数	回収率	調査日	入館者数	配布数	回収数	回収率
平成28年度	平成29年1月18日(水)・22日(日)・23日(月)	3,119	2,030	1,761	86.7%	平成29年2月22日(水)・26日(日)・27日(月)	4,160	2,534	2,097	82.8%
平成29年度	平成29年11月15日(水)・19日(日)・20日(月)	2,850	1,582	1,337	84.5%	中央図書館と同様	2,032	1,428	1,248	87.4%
平成30年度	平成30年11月18日(日)・19日(月)・21日(水)	3,461	1,888	1,607	85.0%		1,916	1,247	1,073	86.0%
令和元年度	令和元年11月24日(日)・25日(月)・27日(水)	3,024	1,945	1,675	86.1%		1,981	1,321	1,113	84.3%
令和2年度 ※1	令和2年11月8日(日)・9日(月)・11日(水)・15日(日)・16日(月)・18日(水)	2,463	1,990	1,829	91.9%		1,025	539	506	93.9%
令和3年度 ※2	令和3年10月17日(日)・18日(月)・20日(水)・24日(日)・25日(月)・27日(水)	2,840	2,283	1,958	85.8%		903	672	648	96.4%

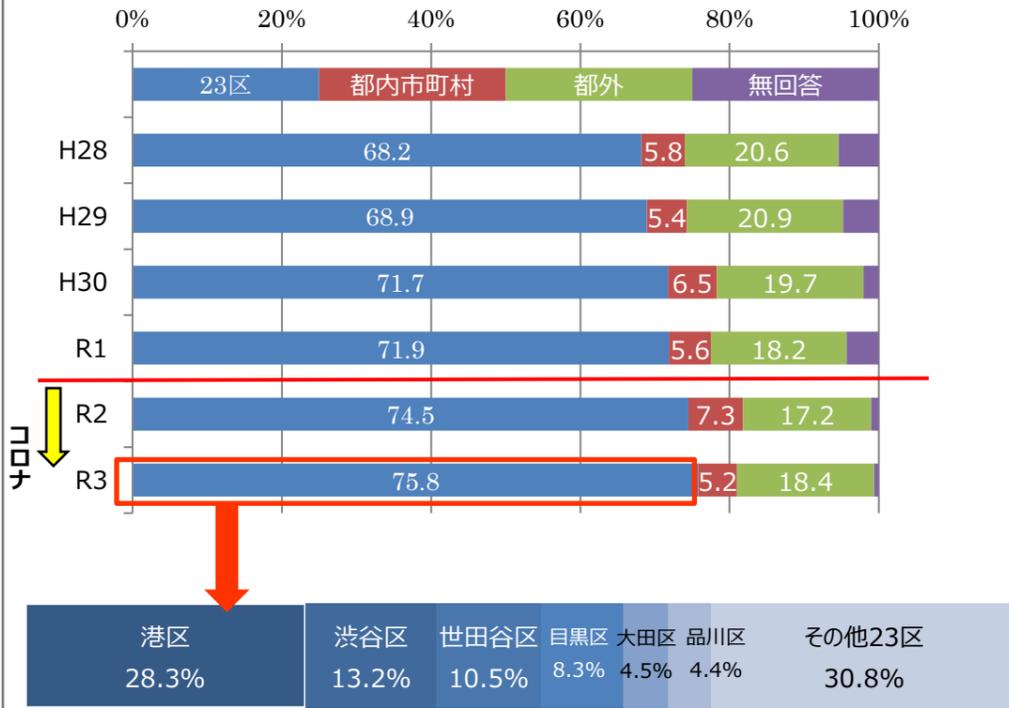
※1：利用時間を3時間ずつに区分(①10:00～13:00、②14:00～17:00、③18:00～21:00、日曜は①②のみ)、間に1時間の入替時間を設定
 ※2：【中央】在館上限400人、利用時間区分なし／【多摩】在館上限80人、※1と同様の利用時間及び入替時間を設定(日曜②は17:30まで)

2 利用実態

(4) 居住地

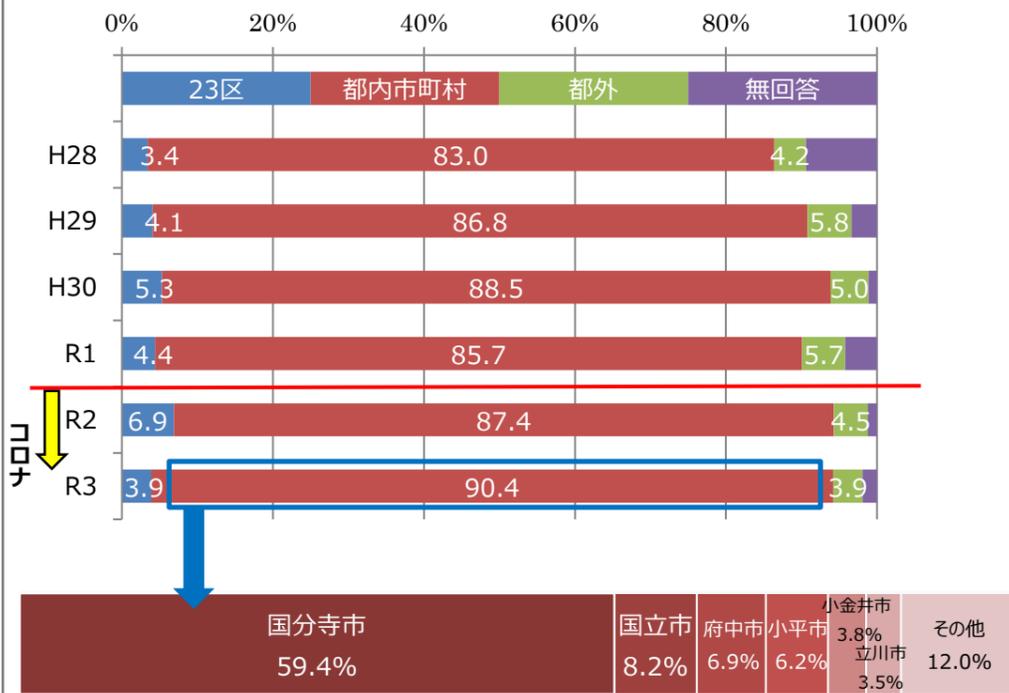
【中央】

- 23区に居住する利用者の割合が7割を超え、コロナ禍でさらにその割合が高まった。
- 23区の内訳では、所在地である港区が最も多く、近隣の渋谷区、目黒区等が続く。



【多摩】

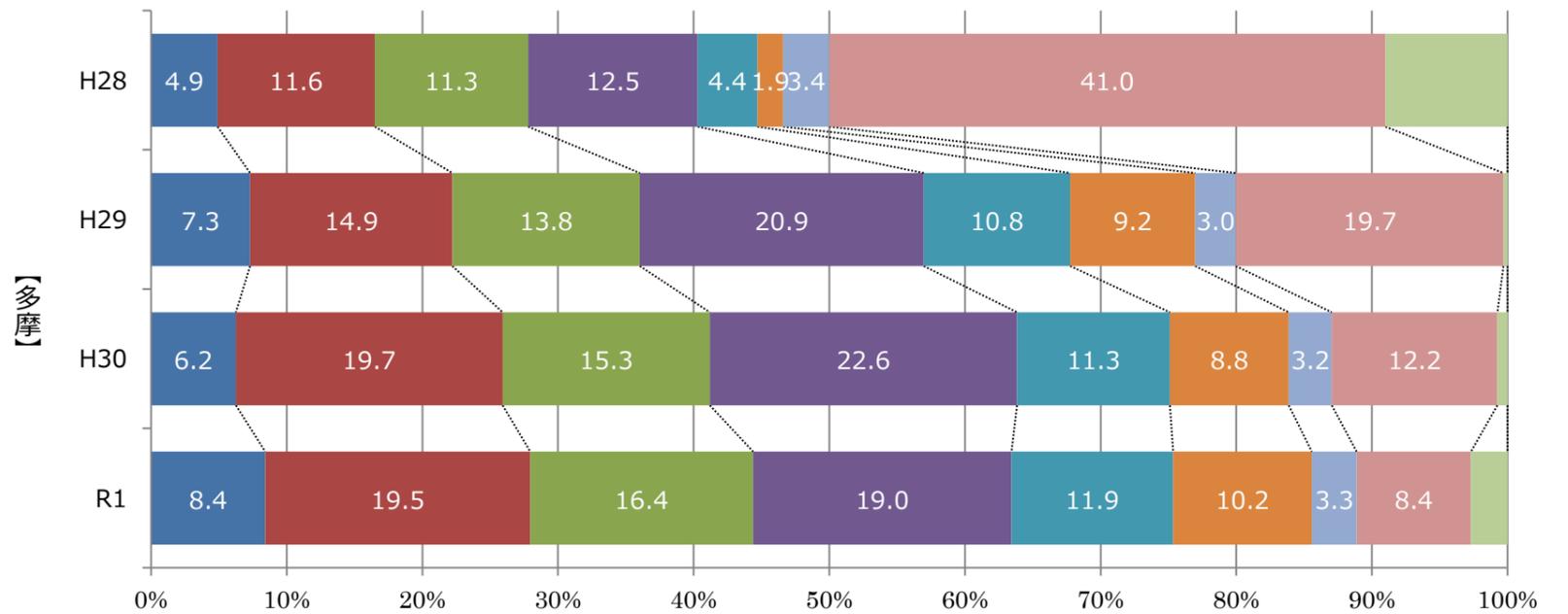
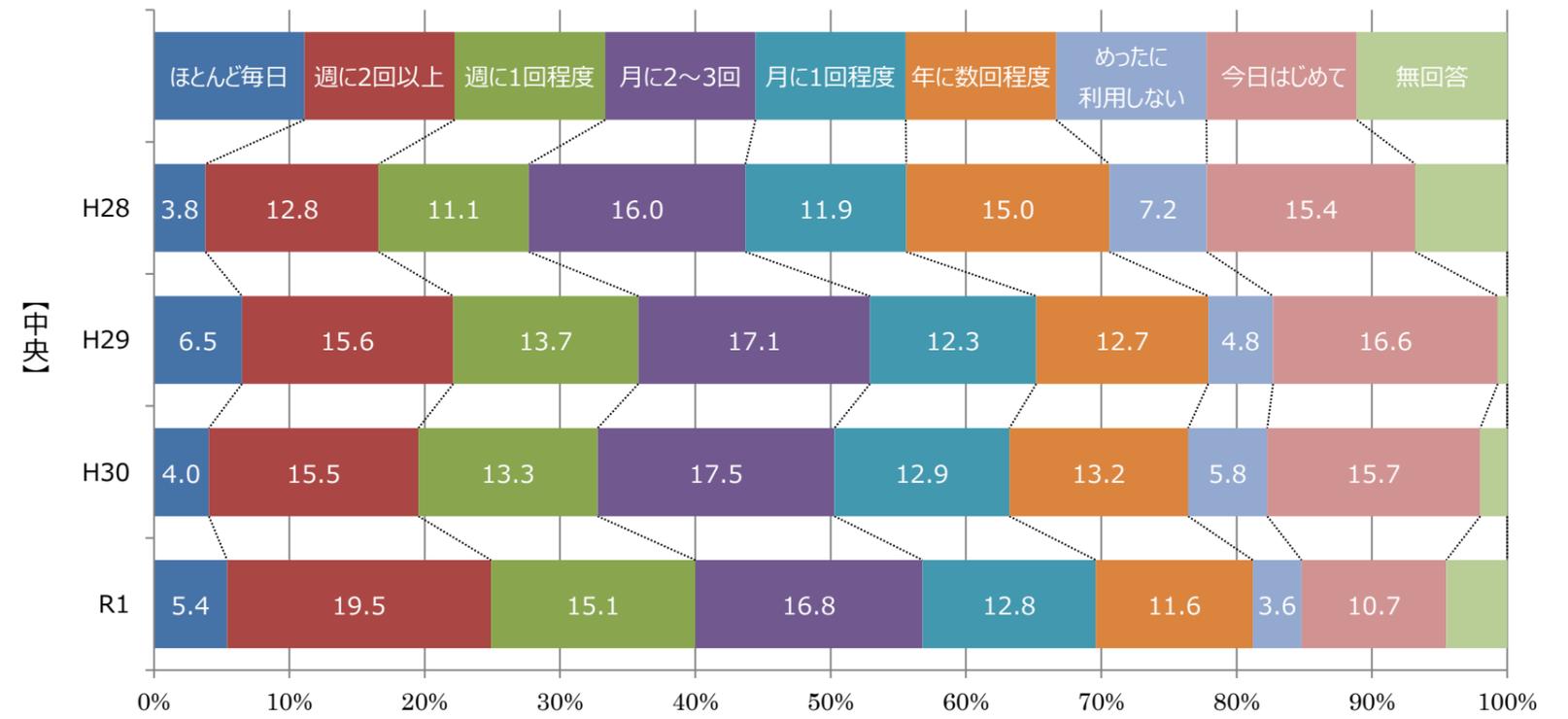
- 都内市町村に居住する利用者が8割を超え、コロナ禍でさらにその割合が高まった。
- 所在地である国分寺市に居住する割合は、全体の約6割を占める。



(1) 利用頻度

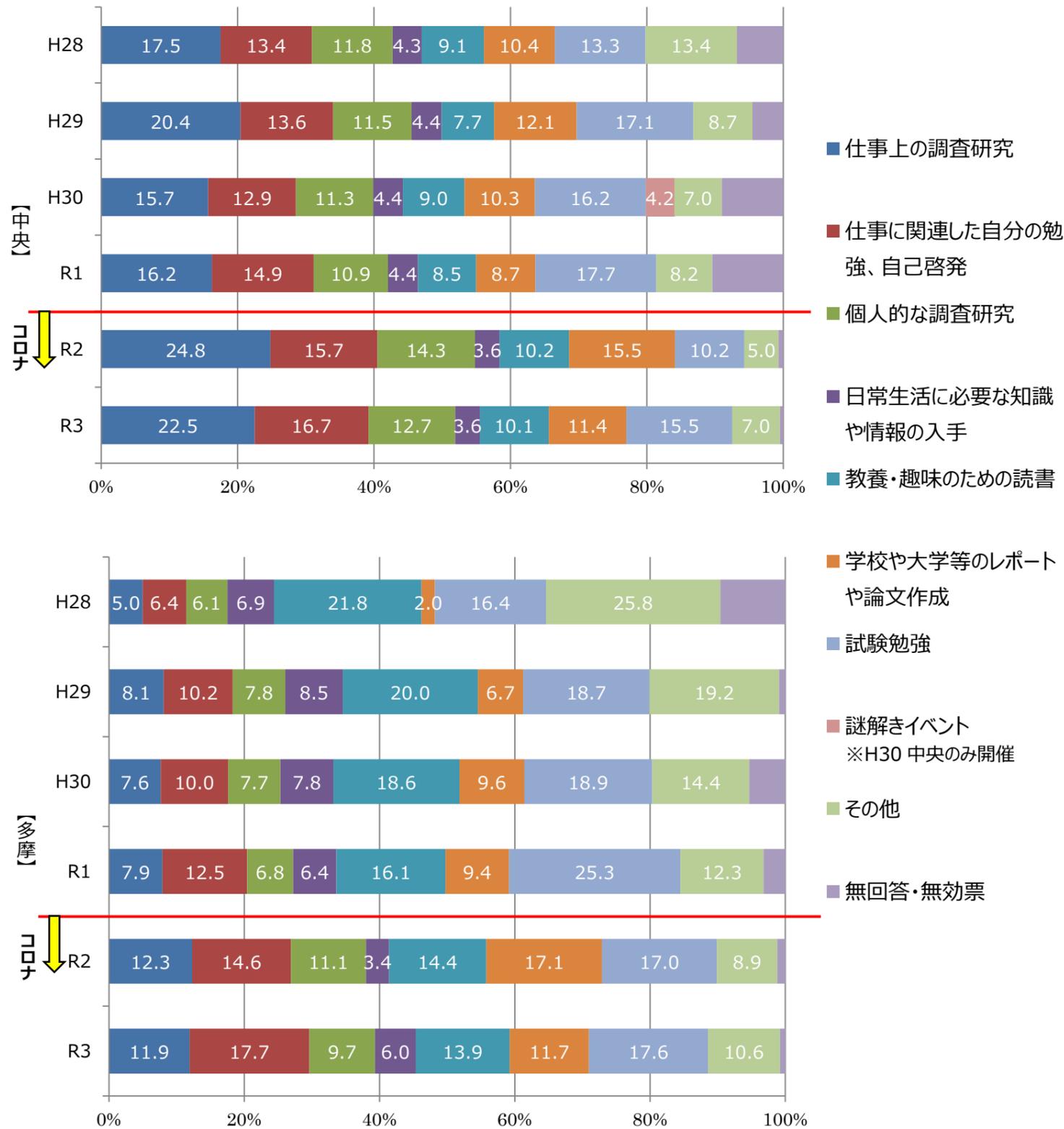
※令和2・3年度はコロナ禍による来館制限等のため調査していない

- 中央・多摩図書館とも、利用頻度については、「週に2回以上」、「月に2〜3回」利用する割合が高い。
- 中央図書館では、「月に1回程度」以上の頻度で利用するリピーター層の割合が平成29年度に6割を超え、多摩図書館では、年々増加し、平成30年度に7割を超えた。(多摩図書館は、平成28年度に移転オープン)



(2) 利用目的

- 中央図書館では「仕事上の調査研究」、「仕事に関連した自分の勉強、自己啓発」の割合が高く、多摩図書館では「教養・趣味のための読書」、「その他」の割合が高い。
- 両館ともコロナ禍で「試験勉強」、「その他」が減少し、「仕事上の調査研究」、「仕事に関連した自分の勉強、自己啓発」、「個人的な調査研究」、「学校や大学等のレポートや論文作成」が増加した。



(3) 都立図書館を利用する理由

- 中央図書館・多摩図書館とも、「資料が豊富だから」、「落ち着いて調べ物や研究に集中できるから」の割合が高い。

